

## 次世代高規格ユニットロードターミナルの概要

### 1. 次世代高規格ユニットロードターミナルについて

内航フェリー・RORO船による輸送は、近年のトラックドライバー不足等によるモーダルシフトの受け皿となるとともに、災害時に他のインフラ機能が停止する際に緊急輸送手段として利用可能であるなど、国内物流を維持する上で極めて重要です。

このような中、トラックドライバーについては、2024年度から時間外労働の上限規制適用等により更なる労働力不足が懸念され、これにより内航フェリー・RORO船によるユニットロード貨物（※）の輸送動向変化や輸送需要増加が想定されます。

これらに対応し、内航フェリー・RORO船のターミナルにおいて、必要となる港湾整備及び情報通信技術や自動技術を用いた荷役効率化などの取組を進めるため、次世代高規格ユニットロードターミナル検討会を開催します。

（※）一定の単位（ユニット）にまとめて輸送される貨物

出所：国土交通省HP

[https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan\\_tk6\\_000098.html](https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk6_000098.html)

### 2. 次世代高規格ユニットロードターミナルのイメージ

（参考）次世代高規格ユニットロードターミナルについて

港湾の中長期政策「PORT2030」  
平成30年7月国土交通省港湾局より抜粋

国土交通省

- 内航フェリー／RORO船によるシームレス輸送の効率性向上のため、情報通信技術を活用して料金決済やシャーシ管理等を効率化するとともに、ターミナル内において自動化技術等を実装した「次世代高規格ユニットロードターミナル」を実現する。
- さらに、環境負荷の低減、非常災害時の緊急物資・救援車両の輸送等に対応するため、運航事業者との協同によるターミナルの規格の統一を図る。



○情報通信技術や自動化技術を効果的に活用することにより、**物流コストの低減やリードタイムの短縮**を図るとともに、モーダルシフトを促進することにより、ドライバー不足等の**国内物流に対する陸上輸送の逼迫感を軽減**

4

出所：第1回次世代高規格ユニットロードターミナル検討会（令和5年2月2日（木））

資料2 内航フェリー・RORO船輸送の現況と今後の課題及びターミナル機能強化の取組内容について

<https://www.mlit.go.jp/kowan/content/001585561.pdf>

### 3. 次世代高規格ユニットロードターミナル検討会

#### ○第1回次世代高規格ユニットロードターミナル検討会（令和5年2月2日（木））

- ・議事要旨
- ・資料1 次世代高規格ユニットロードターミナル検討会開催要綱（案）
- ・資料2 内航フェリー・RORO船輸送の現況と今後の課題及びターミナル機能強化の取組内容について
- ・資料3 敦賀港における次世代高規格ユニットロードターミナル形成に向けた取組
- ・資料4 検討会の今後の進め方について
- ・資料5 内航フェリー・RORO船の輸送の現況と今後の課題に関するアンケート（案）

#### ○第2回次世代高規格ユニットロードターミナル検討会（令和5年3月28日（火））

- ・議事要旨
- ・資料1 内航フェリー・RORO船社へのアンケート結果について
- ・資料2 内貿ユニットロード貨物流動調査の結果速報
- ・資料3 次世代高規格ユニットロードターミナル形成に向けた方向性（案）
- ・資料4 情報通信技術に係るサウンディング調査について
- ・資料5 WGの結果概要について
- ・資料6 今後の進め方について
- ・資料7 荷主・フォワーダーへのアンケート調査について
- ・参考資料1 第1回検討会及びWGにおける意見・質問への対応について
- ・参考資料2 令和4年度ユニットロード貨物流動調査 調査概要

#### ○第3回次世代高規格ユニットロードターミナル検討会（令和5年6月21日（水））

- ・議事要旨
- ・資料1 荷主・フォワーダーへのアンケート調査結果について
- ・資料2 情報通信技術に係るサウンディング調査結果について（WGの結果概要）
- ・資料3 中間とりまとめ(案)の概要について
- ・資料4 中間とりまとめ(案)
- ・参考資料 情報通信技術に係るサウンディング調査結果について（各社提案）

#### ○第4回次世代高規格ユニットロードターミナル検討会（令和6年3月12日（火））

- ・議事要旨
- ・資料1-1 貨物輸送業務に係るアンケート調査結果の概要
- ・資料1-2 内航フェリー・RORO船運航事業者等への現地ヒアリング調査結果
- ・資料2 ターミナル管理システムの個別要素技術の適用可能性評価

- ・資料3 ターミナル管理システムの構築及び現地技術検証
- ・資料4-1 次世代高規格ユニットロードターミナル検討会とりまとめ（案）
- ・資料4-2 次世代高規格ユニットロードターミナル検討会とりまとめ概要（案）
- ・参考資料1 船社アンケート調査結果
- ・参考資料2 トラックドライバー労働力不足を踏まえた海上輸送需要動向の試算

出所：国土交通省HP

[https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan\\_tk6\\_000098.html](https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk6_000098.html)

## 4. 中間とりまとめ

### ①概要

次世代高規格ユニットロードターミナル検討会 中間とりまとめの概要		国土交通省
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内航フェリー・RORO船による輸送は、特にドライバーの実労働時間の短縮に効果があり、環境負荷低減に寄与するとともに、災害時には緊急輸送手段として利用可能であるなど、国内物流を維持する上で極めて重要。</li> <li>○ 既に、船舶輸送スペースの確保が困難な場合や、ターミナルが狭隘で非効率な荷役となっている例も多い。</li> <li>○ 2024年度からのトラックドライバーの時間外労働の上限規制等により労働力不足の問題が顕在化する中、モーダルシフトの受け皿となる内航フェリー・RORO船のターミナル機能強化が急務。</li> </ul>	
「物流の2024年問題」等への対応		
ターミナル機能強化に向けた当面の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 船舶大型化等に対し、岸壁やシャーシ・コンテナ置き場等の港湾施設が必ずしも十分に整備されていない</li> <li>2) ターミナル内のシャーシ・コンテナの位置管理等が十分なされておらず、ドライバーが引き取りにきた牽引用シャーシ・コンテナの探索に時間を要する等、荷役の効率化が求められている</li> <li>3) モーダルシフト促進等に向け、港周辺に、トラックからトレーラーに貨物を積み替える小口貨物積替施設や、農産物等のコールドチェーンに対応するためのリーファープラグが不足している</li> <li>4) 災害発生時の緊急物資輸送等に際し、船会社が、港湾への係留可否判断を行うための情報が十分に整理されておらず、入手に時間を要している</li> </ol>	
今後の取組の方向性		
基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライバー労働力不足に対応するため、モーダルシフトの受け皿となることができるよう、ターミナルの規模の確保や生産性の向上を図る</li> <li>・荷役効率化に向けた情報通信技術等の導入に向けて、各社共通の課題は検討会での議論等を通じ、利用者の視点を十分に取り入れながら、検討を進める</li> </ul>	
当面の取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 船舶大型化等に対応した岸壁やシャーシ・コンテナ置き場等の整備推進（規模の拡張や集約化を含む）</li> <li>2) シャーシ・コンテナ位置管理等のシステム整備</li> <li>3) モーダルシフト輸送需要を踏まえた小口貨物積替施設やリーファープラグの整備推進</li> <li>4) 緊急物資輸送等に際し、係留に必要な情報をサイバーポート上で閲覧できるよう機能改修の検討</li> </ol>	
	 <p>岸壁等の港湾施設の整備 船舶入退場口のシャーシ・コンテナ出入管理 シャーシ・コンテナ位置管理 小口貨物積替施設の整備 ターミナル入退場口のシャーシ・コンテナ出入管理・ダメージチェック シャーシ・コンテナ置き場の整備 リーファープラグの整備</p> <p>船舶大型化や情報通信技術導入等を踏まえたターミナル整備上の留意点検討 緊急物資輸送等を円滑に行うため、係留に必要な情報をサイバーポート上で閲覧できるよう機能改修を検討</p> <p>次世代高規格ユニットロードターミナル形成に向けた当面の取組（イメージ）</p>	

中間とりまとめの本文と概要の詳細については下記よりご覧ください。

- ・ 中間とりまとめ（概要）

<https://www.mlit.go.jp/kowan/content/001617028.pdf>

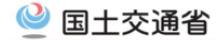
- ・ 中間とりまとめ（本文）

<https://www.mlit.go.jp/kowan/content/001617029.pdf>

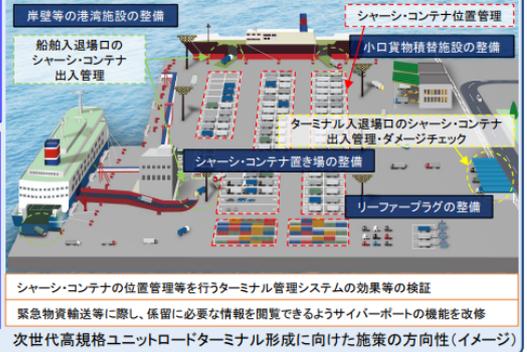
## 5. とりまとめ

### ①概要

#### 次世代高規格ユニットロードターミナル検討会 とりまとめの概要



現状・課題	
「物流の2024年問題」等への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内航フェリー・RORO船による輸送は、特にドライバーの実労働時間の短縮に効果があり、環境負荷低減に寄与するとともに、災害時には緊急輸送手段として利用可能であるなど、国内物流を維持する上で極めて重要。</li> <li>・既に、船舶輸送スペースの確保が困難な場合や、ターミナルが狭隘で非効率な荷役となっている例も多い。</li> <li>・2024年度からのトラックドライバーの時間外労働の上限規制等により労働力不足の問題が顕在化する中、モーダルシフトの受け皿となる内航フェリー・RORO船のターミナル機能強化が急務。</li> </ul>
ターミナル機能強化に向けた当面の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 船舶大型化等に対し、岸壁やシャーシ・コンテナ置き場等の港湾施設が必ずしも十分に整備されていない</li> <li>2) ターミナル内のシャーシ・コンテナの位置管理等が十分なされておらず、ドライバーが引き取りにきた牽引用シャーシ・コンテナの探索に時間を要する等、荷役の効率化が求められている</li> <li>3) モーダルシフト促進等に向け、港周辺に、トラックからトレーラーに貨物を積み替える小口貨物積替施設や、農産物等のコールドチェーンに対応するためのリーファープラグが不足している</li> <li>4) 災害発生時の緊急物資輸送等に際し、船会社が、港湾への係留可否判断を行うための情報が十分に整理されておらず、入手に時間を要している</li> </ol>
今後の取組	
基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライバー労働力不足に対応するため、モーダルシフトの受け皿となることができるよう、今後の輸送需要に対応したターミナルの規模の確保や生産性の向上を図る。</li> <li>・荷役効率化に向けた情報通信技術等の導入に向けて、官民共同で課題解決に取り組む。</li> </ul>
施策の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 船舶大型化等に対応した岸壁等の港湾施設の整備推進（規模の拡張や集約化を含む）</li> <li>2) モーダルシフト輸送需要を踏まえたシャーシ・コンテナ置き場、小口貨物積替施設及びリーファープラグの整備促進</li> <li>3) シャーシ・コンテナの入退場管理及び位置管理を行うターミナル管理システムの開発及びその効果等の検証実施</li> <li>4) 緊急物資輸送等が円滑に行われるよう、係留に必要な情報をサイバーポート上で閲覧できるよう機能を改修</li> </ol>



とりまとめの本文と概要の詳細については下記よりご覧ください。

- ・ とりまとめ（概要）

<https://www.mlit.go.jp/kowan/content/001734835.pdf>

- ・ とりまとめ（本文）

<https://www.mlit.go.jp/kowan/content/001734836.pdf>